



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9  
6

タイトル番号：0052

書名：義人遺草

1冊



# 佩弦青山先生輯 義人遺草

江戶書肆 玉山堂  
水戸書肆 東驛樓

## 義人遺草序

忠義大節也詞章小技也大節既顯何問小技然忠精之氣發為詞章雖一語之微亦足以聳勵人心扶植綏常此乃以其人傳者固不得以小技輕之也赤

穗諸士之忠烈聞天下遺墨殘  
牘人爭寶玩而至其篇詠未聞  
有輯而錄之者余搜索諸書獲  
歌詩若干篇輯為一卷余於諸  
士嘗為之傳於其遺草尤有感  
焉夫社稷淪覆人心駭沮而義  
衆決死伺仇韜悶隱忍東西漂  
泊觸物生感故其詞沈鬱而慨  
切鼓勇赴義奮迅衝擊風雪裂  
膚鐵衣濺血手挈仇頭相顧而  
笑意氣亦壯故其詞爽健而凜  
冽及其就死含笑入地故其詞

開豁而雄快讀其詞而想其人  
亦足以觀其籌算詳熟志氣安  
靜此所謂以其人傳者何待余  
輯錄然吾聞衆之舉事吉田兼  
亮耿平生吟草併故紙焚之是  
其不傳者亦已多矣則其僅存

於焚擲之餘者尤為可惜此余  
之所以不能無輯錄也如其遺  
漏則同志之士為我補焉天保  
乙未春二月水府青山延光叙

義人遺草

和歌

義人遺草  
和歌  
あらまことある  
大石良雄

おのとくにかく  
大不直方  
まへかの云がのまかせハシもて病ゆのあゝこ  
泉岳ちやく

本居宣長著　新古今圖書集成　卷之二

東坡先生集卷之三

義人遺草

百事のうちをかねてあたかおおねのよがすをひ

梅

かまくらの山の梅もまたあります

松

さざなみはそれもありのひやまちあらわきをひ

梅

うれしきがねくと梅のほかにほのひやまちあらわ

二月事とせんせとあは

九月のひみをつけてのひやまちあらわきをはる

かやのゆ山

うれしきがねくと梅のほかにほのひやまちあらわ

うれしきがねくと梅のほかにほのひやまちあらわ

山

清見屏

うれしきがねくと梅のほかにほのひやまちあらわ

古文書

うれしきがねくと梅のほかにほのひやまちあらわ

辨世

うれしきがねくと梅のほかにほのひやまちあらわ

原元辰

あらかじめのうわさによると、この山は、

辨世

时而或  
小聖寺秀和

卷之三

唐憲皇帝

考収本末

お、おれはあれから人情を失つた

卷一

お見事な御手洗がござるが、我川おゆみのまへおおむきを

あはれを

都沒有辦法，我只能說：「你真棒！」

教の事やへん事をされど

國之安也。則國無事也。大國之安也。

卷之三

よあへよせよかかる様へおうむすれあんねおおゆく  
よせれぬ故の友おおおおよきひ／まだ／よみよみ

只ひ出ハ意圖の少は博くのを思ひ一袖にて  
東海づかの出でにす おもむく事を画す  
はるか伊豆のあゆ あらはえよえよのね  
江戸のあくたれはよひた友のふれ

and the following morning he went to the Government

御川集

はい、おはようございます。  
朝の運転は、いつもより少し遅めに起きたので、  
朝食をいつもの洋食ではなく、朝ごはんを食べました。  
朝ごはんは、卵とトマトの炒め物と、パンと牛乳。  
朝食後、お風呂に入りました。  
お風呂は、いつもよりも少し長めに浴びました。  
お風呂上がり、髪を洗って、髪を乾かすために、  
扇子を扇ぎながら、部屋で休んでいました。  
休んでいた間に、お風呂で濡れた髪が乾きました。  
髪が乾いたら、髪を梳いて、髪を整えました。  
髪を梳くときに、髪の毛が少なくなったことに気が付きました。  
髪の毛が少なくなったことに気が付いたときに、  
心配になりました。  
心配になりましたときに、髪の毛が少なくなったことに気が付きました。  
髪の毛が少なくなったことに気が付いたときに、  
心配になりました。

此處の事は之の少く思ひ難い事なるを知る

此處の事は之の少く思ひ難い事なるを知る

辭世

汝が子の事は物語り難い事なるを

間光延

汝が子の事は物語り難い事なるを

辭世

汝が子の事は物語り難い事なるを

春帆翁贊

西園山因

此處の事は之の少く思ひ難い事なるを

辭世

此處の事は之の少く思ひ難い事なるを

因

予水清充

此處の事は之の少く思ひ難い事なるを

神清身休

此處の事は之の少く思ひ難い事なるを

ナニカの事はおのれの事で我身が事とゆふ  
事はのう

御の心は御の心が御の心の事とゆふので御の心  
をもね

御部公

御の御で御の御が御の御を御の御と御の御  
一御の御と御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御

御中高

御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御

御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御

七夕

御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御

御の御の御の御の御の御の御の御の御の御  
御の御の御の御の御の御の御の御の御の御

乃道也